

(仮訳)
第22回日中韓三カ国環境大臣会合 共同コミュニケ
2021年12月7日 (韓国ホストによるビデオ会議)

前文

1. 韓貞愛大韓民国環境部長官、黄潤秋中華人民共和国生態環境部長と山口壯日本国環境大臣は、第22回日中韓三カ国環境大臣会合 (TEMM22) を、オンラインで開催した。

日中韓における環境政策の最近の進捗

2. 三大臣は、TEMM21以降の環境政策における最近の進捗を共有した。韓環境部長官は「グリーン環境に向けての韓国の旅路」、黄生態環境部長は「グリーン・低炭素開発の道程の実行と清潔で美しい世界の共同構築」、山口環境大臣は「日本の環境政策のレビューと概要」を発表した。三大臣は、こうした三カ国の努力が北東アジアにおける持続可能な開発の達成、また国内、地域及び世界規模の環境問題の解決へ貢献するという認識を共有した。

日中韓三カ国環境協力における最近の進展

3. 三大臣は、環境協力に係る日中韓三カ国共同行動計画 (2015年～2019年) (TJAP 2015-2019) が、三カ国の環境管理能力の向上、普及啓発の増進、また、TEMMを地域及び世界規模の環境課題及び持続可能な開発に向け取り組むための良好に機能する三カ国協力メカニズムとしての確立に顕著な成果を収め、成功裏に完結したことを満足し評価した。
4. 三大臣は、新型コロナウイルスによる世界的危機に際してもTEMM協力の継続及び更なる強化の重要性を強調するとともに、ビデオ会議等のオンラインコミュニケーションを通じて共同活動を実施することにより、協力の機運を維持しようとする三カ国の協調的な努力を高く評価した。
5. 三大臣は、2020年7月及び2021年9月にそれぞれビデオ会議で開催された第

7回及び第8回の大気汚染に関する日中韓三カ国政策対話（TPDAP）の結果を歓迎した。三大臣は第2次5カ年実施計画（2021年～2025年）の実施が、特にPM2.5及びオゾンに焦点をあてた三カ国の大気環境改善に資することを認識した。三大臣は、2020年10月に中国が、2021年9月に日本がそれぞれホストして開催された第13回及び第14回の黄砂ワーキンググループI（DSS WG I）会合を通じ、DSS WG Iの中期行動計画（2020年～2024年）の実施における協力が進捗したことを歓迎した。また三大臣は、2020年12月に日本がホストして開催した第13回黄砂ワーキンググループII（DSS WG II）において、DSS WG IIの中期行動計画（2020年～2024年）が策定されたことを評価した。三大臣は、2021年9月に開催された黄砂拡大ワークショップを通じたDSS WG IとDSS WG IIの協働に触れ、その継続的な協働を奨励した。三大臣はまた、DSSポータルウェブサイトの開設を評価した。

6. 三大臣は、2020年9月に日本がホストし、2021年7月に韓国がホストして、それぞれビデオ会議で開催された第7回及び第8回の日中韓生物多様性政策対話（TPDBD）の成果を歓迎した。同TPDBDでは、中国の昆明での生物多様性条約第15回締約国会議（CBD COP 15）にて採択される、ポスト2020生物多様性枠組におけるゴール、ターゲット、指標、実施及びモニタリングのメカニズム及び評価のための手法、また侵略的外来種対策について討議を行った。三大臣はまた、生物多様性に関する三カ国の協力がより強化されることを歓迎した。
7. 三大臣は、国連気候変動枠組み条約第22回締約国会議（UNFCCC COP22）において韓国環境研究所（KEI）、国立気候変動戦略・国際協力センター（NCSC）、及び地球環境戦略研究機関（IGES）の協力により行うことが承認された脱炭素及び持続可能な開発に向けた都市に関する共同研究と、その成果としての脱炭素と持続可能な都市に向けた優良事例の成果を歓迎した。三大臣はまた、三カ国が都市レベルでの適応に関して更なる協力を強化することを歓迎した。
8. 三大臣は、G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組の実施に関連するすべての行動の進捗についての共有を含め、2021年9月に日本のホストによって開催されたTEMM-NOWPAP海洋ごみ管理に関する合同ワークショップの結果を歓迎した。
9. 三大臣は、三カ国が循環経済及びプラスチックごみの削減・管理に関する政策について意見を交換した、2019年12月に中国で開催された第13回循環型社会・循環経済・3Rセミナー、及び2020年12月にオンラインで開催さ

れた第14回セミナーの成果を歓迎した。

10. 三大臣は、2020年11月に韓国ホストによって、また2021年11月に中国のホストによってビデオ会議で開催された、第14回及び第15回の日中韓三カ国化学物質管理に関する政策対話（TPDCM）における化学物質管理規制に関する最新の情報及び経験についての有意義な議論が行われたこと、また化学物質管理に関する日中韓三カ国専門家セミナーにおいて共同研究が進展したことに留意した。
11. 三大臣は、三カ国が積極的に参加した、第2回P4Gソウルサミット、第4回アジア太平洋地域大臣及び環境当局フォーラム、CBD COP15第1部及びUNFCCC COP26でなされた、グリーンリカバリー、カーボンニュートラル、生物多様性保全及び持続可能な開発目標を達成するための多国間協調の促進のため有意義な議論がなされたことに留意した。

環境協力に係る三カ国共同行動計画（2021-2025）の採択

12. 日中韓サミットで表明され、2015年の「環境協力の強化に関する共同声明」及び2019年の「次の10年に向けた3か国協力に関するビジョン」に記載された誓約を踏まえ、三大臣は、2025年までの期間における三カ国の環境協力のビジョン、原則及び目的を規定し、TEMM21で採択された以下の8つの優先分野における具体的なアクション及び実施計画を定めた三カ国共同行動計画（2021年～2025年）（TJAP 2021-2025）を採択した：
 - (1) 大気環境改善
 - (2) 3R、循環経済、ゼロ・ウェイストシティ
 - (3) 海洋・水環境管理
 - (4) 気候変動
 - (5) 生物多様性
 - (6) 化学物質管理と環境に関する緊急時対応

(7) グリーン経済への移行

(8) 環境教育・市民啓発及び市民関与

13. 三大臣は、三カ国間の努力を通じて、TJAP 2021-2025を成功裏に実施するという誓約を共有した。三大臣は、共同の行動を実施することにより、持続可能な開発目標、UNFCCC及びパリ協定等の世界的な目標の達成、地域におけるグリーントランスフォーメーションの促進、並びに三カ国の共通の関心事である環境課題への取組みに貢献することを期待した。三大臣はまた、三カ国間のコンセンサスに基づいたTJAPの実施において、ユース、ビジネス、学術学会、地方政府や市民社会といった様々な関係者の継続的かつ積極的な参加を奨励した。
14. 三大臣は、TJAP 2021-2025を韓国で開催される第9回日中韓サミットに提出する。
15. 三大臣は、TEMMの枠組みにおける日中韓三国協力事務局（TCS）の貢献を認識し、TJAP 2021-2025の下でTCSと引き続きの協働することを歓迎した。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大からのグリーンリカバリーの促進

16. 三大臣は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が経済、社会及び環境に与える影響を最小限に食い止めるべく奮闘するため、三カ国の英知を結集することの重要性を強調した。三大臣は、生態系の保全を優先し、緑の開発を達成することを念頭に、新型コロナウイルスからのより良い、よりグリーンな未来を築くための行動が、各国の事情を考慮したグリーンで低炭素・脱炭素・カーボンニュートラルかつ強靱な経済への移行、また同時に効果的な環境保護を促進する必要があるとの認識を共有した。三大臣は、新型コロナウイルスからのグリーンで包括的な復興に関する政策とベストプラクティスの情報交換のためにTEMMメカニズムを最大限に利用し、また、新型コロナウイルスからの持続可能で強靱な復興に関する「オンラインプラットフォーム」等の他のプラットフォームを通じて経験を共有する意思を示した。

TEMM協力の推進

17. 三大臣は、それぞれ温室効果ガス（GHG）排出量ネットゼロあるいはカーボンニュートラル達成の約束とその目標到達に向けた政策を強化すべく近年、顕著な前進をとげたことを強調した。三大臣は、特に重要なこの十年間において、行動と国内緩和策の実施を加速することで、排出管理・削減のためにより一層尽力することが喫緊に必要であることを強調した。三大臣は、様々な関係者との更なる協力及び地方政府による気候行動の好事例を共有することが重要であることを強調した。三大臣は、パリ協定第6条（市場メカニズム及び非市場メカニズム）の実施規定の採択を歓迎し、排出管理・削減のため6条を実施することの重要性を強調した。三大臣は、長期目標の設定およびUNFCCCとパリ協定の実施のための政策強化を他国に呼び掛け、必要に応じて他国と協力する意思を表明した。
18. 三大臣は、中国・昆明で2021年10月に成功裏に開催されたCBD COP15第1部での昆明宣言の採択を歓迎した。三大臣は、「自然との共生」の2050ビジョンの完全な実現に向け、現在の生物多様性喪失を逆転させる効果的なポスト2020世界生物多様性枠組の策定・採択・実施を確保し、遅くとも2030年までに生物多様性を回復させる道筋に乗せることを確保するため、共に密接に作業することを決定した。三大臣はまた、絶滅危惧種の保護及び回復と、炭素吸収源としての森林や湿原のような生態系の保全の重要性を強調した。
19. 三大臣は、「三カ国+X」協力の可能性の模索及び海洋プラスチックごみや生物多様性、カーボンニュートラル等の共通の関心事の問題についてのより広い多国間の環境プロセスにおける協力の強化など、三カ国協力の拡大に期待を示した。三大臣は、今後の第5回国連環境総会第2回会合（UNEA-5.2）、CBD COP15第2部、UNFCCC COP27、及び2020年G20環境大臣会合等の地域規模・地球規模の主要な環境イベントにおいて、三カ国間の密接な協力を奨励することを決定した。
20. 三大臣は、政策協力のための科学的基盤となる研究協力が重要であることを認識し、三カ国環境研究機関長会合（TPM）の下での韓国の国立環境科学院（NIER）、日本の国立環境研究所（NIES）、中国の中国環境科学研究院（CRAES）の間の協力を評価した。三大臣は、二つの三カ国メカニズムが相互に支援し合えるよう、独立的なプラットフォームであるTPMとの交流を通してTEMMが研究協力を見出し促進することを奨励する意思を示した。

TEMM23

21. 三大臣は、TEMM23を2022年に中国で開催することを決定した。開催日、場所は主催国が提案し、その後、日本と韓国が追認する。

おわりに

22. 三大臣は、TEMM22 の実りのある成果を収めたことに満足の意を表した。黄潤秋生態環境部長と山口壯環境大臣は、韓貞愛環境部長官に対して、会議のホストに感謝の意を表した。

山口壯
日本国 環境大臣

韓貞愛
大韓民国 環境部長官

黃潤秋
中華人民共和國 生態環境部長